

1 策定の趣旨

- 熊本市総合計画の個別計画として位置付け、本市の農水産業施策の方向性ととともに具体的な取組などを明確にし、施策の着実かつ効果的な実施につなげることを目指して策定する。
- 計画期間は、令和6～13年度

2 検討の経緯

- 「市長とドンドン語ろう！」をはじめとする農漁業者との意見交換会や市の附属機関である熊本市農水産業計画推進委員会等を開催し、現行計画の評価と課題抽出を行い、本市農水産業の将来方向及びその実現に必要な対策を検討した。

【将来方向の具体的なイメージ】

農漁業者が安心感と充実感を抱きながら、経営の向上に日々挑戦し続け、社会経済情勢などの外的環境の変化にも柔軟に対応できる。魅力あふれる農水産業・農水産物に市民が誇りを感じながら、農水産業が基幹産業として持続可能なかたちで未来に引き継がれていく状態。

3 必要な対策(策定のポイント)

課題	主な対策(策定のポイント)
○ 農水産業の生産性の向上と持続性の両立 ○ 鳥獣被害の防止・軽減 ○ ノリの生産維持、漁業資源の回復	○ 農業経営の高度化に向けた<u>スマート農業技術等の普及定着</u>や施設・機械等の導入の推進 ○ 地域ぐるみでの計画的な<u>有害鳥獣対策</u>の推進 ○ 海水温の上昇などの<u>環境の変化に対応したノリ養殖業</u>や漁場の<u>漁業資源の回復</u>に向けた取組の推進
○ 農水産業の担い手の継続的な確保 ○ 農地の継続的な確保と利用 ○ 経営体のリスク対応力の強化 ○ 災害や環境変化に対応できる生産基盤づくり	○ 認定農業者制度や認定新規就農者制度、経営基盤強化促進法に基づく「地域計画」等を活用した<u>多様な担い手の育成・確保</u>や<u>農地の利用集積</u>等の推進 ○ 農漁業経営の安定化の推進 ○ 国土強靱化の視点を踏まえた基盤整備の着実な実施と適切な維持管理の推進
○ 適正な価格形成を目指した国内外の販路開拓・拡大と熊本市産の農水産物のブランド化の推進 ○ 農水産業への市民等の理解醸成 ○ 地産地消の推進	○ ECサイトなどの<u>生産者による価格設定の自由度が高い販路の開拓</u>、マーケットインの発想に基づく効果的な<u>輸出展開</u>の推進 ○ <u>SNSなどを活用した情報発信力の強化</u>の推進 ○ 道の駅や農産物直売所の活性化等による地産地消の推進

4 体系

〔将来方向〕 〔施策の目標〕

〔基本方針〕

〔施策〕

スマート農業などの普及定着

策定のポイント

有害鳥獣対策

次期(第8次)総合計画と一致

活力と魅力に満ちた持続可能な農水産業の振興

1 競争力の高い農水産業の振興



1-1 地域の強みを活かし、生産性向上と持続性を両立する農業の推進

1-1-1 スマート農業なども活用した、良質な農産物の生産の振興
1-1-2 安定した農業生産・集出荷の推進、鳥獣対策の強化
1-1-3 環境に配慮した農業と安全・安心な農産物づくりの推進

1-2 獲れる・稼げる水産業の推進

1-2-1 環境の変化に対応した養殖漁業の推進
1-2-2 資源管理・回復の推進

環境変化に対応したノリ養殖業

漁業資源の回復

2-1 安心して続けられる経営の確立

2-1-1 担い手の育成・確保の推進
2-1-2 経営安定対策の推進

多様な担い手の育成・確保、農地の利用集積

2-2 災害や環境変化にも対応した生産基盤づくり

2-2-1 農地及び土地改良施設の整備・保全の推進
2-2-2 漁場及び漁港施設の整備・保全の推進

3-1 くまもとの魅力あふれる農水産物のブランド化

3-1-1 国内外における販路の開拓・拡大

生産者による価格設定の自由度が高い販路の開拓、輸出

SNSを活用した情報発信力の強化

3-2 農水産業への理解の醸成

3-2-1 多様な媒体を活用した情報発信と交流促進
3-2-2 地産地消の推進

※ 赤字: 現行計画からの主な変更箇所

今後、〔施策〕の内容について総合計画(基本計画・アクションプラン)との整合性を取りつつ、具体的な取組、検証指標などを整理し、計画(素案)として取りまとめる

5 今後のスケジュール

総合計画

農水産業計画

外部審議会
骨子

外部審議会
素案

パブリックコメント

外部審議会
原案

策定

※) 熊本市農水産業計画推進委員会(市附属機関)

- 農水産業計画の着実な推進を図るため、計画の評価と進行管理を行うことを目的として設置。
- 学識経験者、農水産業関係者(農協や漁協など)、市民の代表者(公募)等の15名の委員で組織。
(会長: 熊本学園大学商学部 波積真理教授)

令和5年度(2023年度)

令和6年度(2024年度)

